

## 第四主日礼拝

【第一部】午前 9:00-10:00

【第二部】午前 11:00-12:00

(第二部は YouTube 同時配信)

前奏・黙祷

招 詞 詩篇 18 篇 31-33 節 (旧約 948)

賛 美 あなたの神 (教会福音 211)

交 読 詩篇 107 篇 1-22 節 (旧約 1048)

主の祈り・使徒信条

聖書朗読 ヨハネの福音書 19 章 31-42 節 (新約 226)

牧者公祷 (換気を行います)

説 教 『歓喜への伏線』

松井元始牧師

応答のとき

賛 美 暗やみに輝く灯 (教会福音 129)

感謝祈祷

頌 栄 父・子・聖霊の (教会福音 271)

祝 祷

後奏・黙祷

\* \* \*

報 告

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉 〈奏楽〉 〈受付〉 〈聖書朗読〉 〈感謝祈祷〉

【第 1 部】

【第 2 部】 松井師 牧子師 司会者

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会

牧師: 松井元始・牧子

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>E-mail: [immanuelojichurch@gmail.com](mailto:immanuelojichurch@gmail.com)

銀行振込: みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



## 『歓喜への伏線』 (ヨハネの福音書 19 章 31-42 節) 2023.3.26.

<はじめに> イエスは十字架上で息を引き取られ、ここでは遺体の処置と葬りが描かれています。イエスの生涯のエンドロールです。しかし、ここにも見逃してはならないことが綴られています。

### I 死体をどうする(31-34)

#### ① 大いなる日(31)

この日は金曜日、しかも過越の祭りが始まる前日、神殿では午後には過越の子羊を屠る礼拝が行われていました。同じ頃に「世の罪を取り除く神の子羊」(1:29)なるイエスが息を引き取られました。安息日が始まる日没は数時間後に迫っていました。

#### ② ユダヤ人の関心事(31)

十字架刑は数日にわたることもあり、ローマでは見せしめのために死体をそのままさらすのが常でした。ユダヤ人たちが脚を折って死体の取り降ろしを願ったのは情けではなく、死を確実に早め、大切な過越の祭りを汚さぬよう律法を順守したまでです(申命 21:23)。

#### ③ 脇腹を槍で(32-34)

ローマ兵がイエスだけ脚を折らなかったのは、すでにイエスが絶命していたからです。しかし一人の兵士がイエスの脇腹を槍で突き刺すと、すぐに血と水が流れ出ます。さらし者にできないなら、辱めを与えようとする正義に潜む残虐性のなせる業です。

### II 証言・預言・伏線(35-37)

#### ① 目撃者の証言(35)

目撃者の証言は重要証拠となります。目撃者が誰であったかには各論がありますが、記者ヨハネはその人を知っていて、その人格と証しが真実であると保証します。そして、読者にもこの証言を信じ受け入れるようにと訴えます。あなたはこれを信じますか。

#### ② 聖書の成就(36-37)

36 節に言及されている聖書は詩篇 34:20、37 節はゼカリヤ 12:10 です。また出 12:46 の過越の子羊の骨は折ってはならないとの律法の規定は予表です。この出来事一つ一つが遥か昔から預言されていたことの成就です。十字架は神の御計画だったと分かります

#### ③ 復活の主への伏線

3 日後にイエスは復活されます。この箇所の記述と証言は、復活を否定し信じない諸説を覆すものです。イエスは確かに死なれましたが、確かによみがえられました(1コリント 15:3-5)。手と脇の傷跡が本人であることの揺るがない証拠です(20:20)。

### III 会葬者たち

#### ① アリマタヤのヨセフ(38-42)

裕福な議員でありながら、密かにイエスの弟子であった彼が、勇気を出してピラトに遺体引き取りを願い出、処刑場近くの園にあった自分所有の新しい墓(マタイ 27:60)にイエスを急ぎ葬ります。きれいな亜麻布も彼が用意したもの(マルコ 15:46)でした。

#### ② ニコデモ(39)

彼も議員で、イエス信奉者でした(3:1-2)。イエスの埋葬のために没薬と沈香約 33kg ほどを携え来ました。彼らは協力して、日没までに埋葬の習慣に従ってイエスのからだを香料と一緒に亜麻布で巻いて墓に納め、入口には大きな石で封をします(マタイ 27:60)。

#### ③ 見ていた女たち(マルコ 15:47、ルカ 23:55)

慌ただしい葬りの中、イエスのからだに墓に納められる一部始終をイエスに従う女たちがずっと見届けていました。安息日が明けたなら、再び墓参りに来るためです。これらの事実と見証も、イエスの復活を確かなものとする証拠となり、喜びの知らせの土台となります。

<おわりに> 沈痛なイエスの死と葬りの中にも、神様は来たる復活の喜びの布石を置いておられます。私たちが厳しく辛い場面を通されるとしても、イエスをよみがえらされた神様は喜びと勝利を保証されます。神様はみごとに伏線回収される御方です。「私たちは見えるものによらず、信仰によって歩んでいます」(IIコリント 5:7)。(H.M.)